《膨脹式》

# 取扱説明書

## 作業用救命衣

（小型船舶用救命胴衣の要件に適合するもの）

## マリンベスト KK-1

分類の種類 TYPE A

国土交通省型式承認番号第4469号

作成2002. 04. 01
改訂2003. 12. 26

ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくご使用下さい。
尚、本品は繰り返し使用できますので、この説明書を、大切に保管してください。
本製品の使用方法および再使用手順は、3ページから7ページに記載してあります

製 造 販 売
（国土交通省認定製造事業場）
興亜化工株式会社

### ⚠警　告

### ■取扱上の注意事

1. 泳げない人は使用を避けて下さい。

2. ポーチの中に物を入れないで下さい（たばこや手袋など）。救命胴衣が膨脹しない原因や安全な着用を妨げる原因になります。

3. 落したり、ぶつけたりしないで下さい。強い衝撃が加わると自動カット装置が破損して使用できなくなります。誤って落としたり、ぶつけたりした場合は、必ず自動カット装置を点検してください。
（7ページの保守・点検の項を参照）

4. 強い衝撃を与えたり、鋭利な刃物や突起物に触れさせないで下さい。強い衝撃を与えたり、鋭利な刃物や突起物に触れた場合などは、補助送気管より口で空気を吹き込み、救命胴衣を膨脹させて１２時間以上放置した後、漏れがないか調べて下さい。その後、補助送気管より救命胴衣の中の空気を完全に抜き、キャップをして下さい。

5. 本製品は、ガスボンベに充填された炭酸ガスによって膨脹します。ガスボンベが緩みなく装着されているか確認して下さい。救命胴衣が膨脹しない原因になります。

6. ガスボンベ及びスプールは純正部品以外のものを使用しないで下さい。正常に膨脹できなくなる原因になります。又、一度膨脹に使用されたガスボンベ及びスプールは、二度と使えません。装着しないで下さい。



### ⚠警　告

### ■取扱上の注意事

スプールの有効期限は１年です。
スプールは経年変化により、水没してから救命胴衣が自動膨脹するまでの時間が長くなる傾向がありますので、出来るだけお早めにお取り替え下さい。

一度膨らませた救命胴衣は、補助送気管より中のガスを完全に抜き、キャップをして下さい。ガスが残ったまま再度使用しますと、膨脹しすぎとなり救命胴衣を破裂させる原因になります。

ホース等により、水をかけないで下さい。
救命胴衣が膨脹する恐れがあります。

### ⚠注　意

### ■取扱上の注意事

1. 使用前には必ず自主点検をして下さい。
（7ページの保守・点検の項を参照）

2. 使用しない場合、炎天下、車のトランクの中など、高温多湿の環境下では保管しないで下さい。
ガスボンベを破裂させたり、自動カット装置を誤動作させる原因になります。

3. 幼児の手の届かないところに保管して下さい。怪我などの原因になります。

4. 自動カット装置は精密な構造ですから、分解しないで下さい。自動カット装置を誤動作させる原因になります。

### ■製品仕様

| | |
|---|---|
| 救　命　胴　衣 | 首掛け式、<br>縦約54cm、幅約36cm（膨脹時）、<br>オレンジ色、ﾅｲﾛﾝ・ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝｺｰﾃｨﾝｸﾞ布、<br>再帰反射材貼付、　補助送気管付<br>浮力：約10Kg |
| 自動膨脹装置 | 自動カット装置：1個<br>ｽﾌﾟｰﾙ（内装）：1個　（手動膨脹兼用）<br>ガスボンベ（液化炭酸ガス 17g）：1個 |
| ポ　ー　チ<br>（寸法・重量） | 250mm x 110mm x 50mm・約120g |
| 全　重　量 | 約540g（救命胴衣部分420g） |

### ■概　要

本製品は、船舶設備規程第311条の20（作業用救命衣）、同条の21及び小型船舶安全規則第53条（小型船舶用救命胴衣）並びに小型漁船安全規則第25条（救命設備の要件）の第2項に適合するものです。

本製品は、船員労働安全衛生規則（船外作業及び漁労作業）に規定された作業用救命衣として、海中転落の恐れのある作業等で常時着用に適し、軽量でコンパクトに設計され、更に小型船舶用救命胴衣としてもご使用頂ける兼用タイプです。水中に没すると、救命胴衣が膨脹し、ポーチから飛び出て浮上する仕組みになっています。



### ■各部の名称

### ■使用方法

1. ＫＫ－１の装着
ポーチ（作業用救命衣兼小型船用救命胴衣内蔵）を腰部前面に装着します。（図-1）

・ポーチに付いているベルトを腰部に廻し、ベルトの左右のバックル（留め具）を差し込み、ベルトの長さを調整してしっかりと装着して下さい。

装着が十分でないとポーチが水中で外れてしまう原因になります。

2. ＫＫ－１の自動膨脹
本製品は、水中に全没すると、自動膨脹装置が作動し、ガス膨脹に依り展張して、救命胴衣がポーチから出て水面上の前面（顔の前）に出てきます。

＊ポーチを腰部側面等に付けていた場合は、水中でポーチを掴んで、前面に廻して下さい。

＊＊自動膨脹が少しでも遅いと思われた際には、手動膨脹用引き紐（握り玉）を強く横に引っ張って下さい。即、膨脹します。

3. 救命胴衣を首に掛ける
水面上で前面（顔の前）に出た救命胴衣の両端を掴んで、救命胴衣の首部内側（「体側」）を首に掛けて下さい。（救命胴衣首部内側に頭を通す）-（図-2）

＊救命胴衣の上部に「表側」・「体側」の標示がして有ります。「体側」を身体側にして装着して下さい。



＊＊既に膨脹している救命胴衣を装着する場合には、先に「体側」を身体側にして首に掛けて装着し、その後ベルトを腰部に廻してバックルの両端を差込み、ベルトの長さを調整してしっかりと装着して下さい

■図-1

■図-2

4. 適正な浮遊姿勢
救命胴衣、ベルト及びベルト連結紐との組合せで、適正な浮遊姿勢を保ちます。（図-3）

■図-3

★手動による膨脹
自動膨脹とは別に、手動で膨脹出来る機構が付いております。

【水上へ避難する場合の膨脹】
緊急でない場合は、ポーチから救命胴衣を取り出し、首に掛けて、自動カット装置に付いている手動膨脹用引き紐を強く横に引っ張ると、自動膨脹装置が作動して、救命胴衣が膨脹します。

### ■補助送気管（装置）

この装置は、気室（救命胴衣の中）に空気を補給する時、又は気室の空気を排気する時に使用する装置です。

a. 空気補給時：キャップを外して、補助送気管の口金（樹脂製）から補給します。補給後はキャップをして下さい。
b. 空気排気時：キャップを外して、キャップの先の爪を補助送気管の口金（樹脂製）に差込んで押しますと排します。

裏面へ続く

## ■膨脹使用後の再生

膨脹使用後の作業用救命衣ＫＫ－１は以下の再生手順に従って再生でき、新品と同等の性能が得られます。

《手動で作動させた場合は、自動カット装置に壊れて残っているシールピンを取り除き、自動カット装置の手動用作動レバーを元に戻し、新しいシールピンを差し込み、手動用作動レバーを固定して下さい。その上で下記手順に従って行って下さい。》

1. 救命胴衣を膨脹使用後は、漏洩個所が無い事を確認して下さい。
（方法：救命胴衣が膨脹した状態で水没又は石鹸水の塗布をしますと、漏れがあれば泡が発生します。）

2. 真水で良く洗浄してください。その後、次の要領でガスボンベとスプールを取り外し、救命胴衣、自動カット装置及びキャップを日陰で良く乾かして下さい。

＜ガスボンベとスプールの取り外し方法＞

①自動カット装置のキャップを左に回して外し、使用済のスプールを取り出して下さい。
②使用済のガスボンベを左に回して外して下さい。

3. 自動カット装置の手動用作動レバーが下に下がっている時は、上に引き上げて元の位置に戻し、シールピンで固定して下さい。

4. 救命胴衣の気室内の空気(ガス)を充分に抜いて下さい。

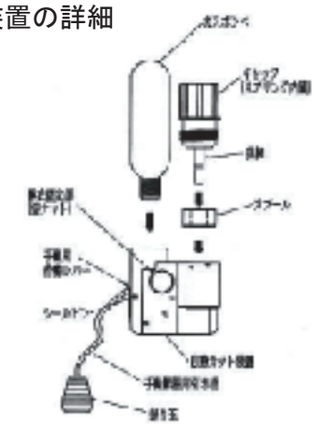
5. 新しいガスボンベ(ＣＯ2:17g)とスプールを取り付けて下さい。

＜ガスボンベとスプールの取り付け方法＞

①自動カット装置及びキャップの内部に水滴等の付着がないことを確認して下さい。
②新しいスプールを、自動カット装置に挿入して、キャップをしっかりと締めて下さい。
③手動膨脹用引き紐が救命胴衣布とガスボンベの間に挟まることがないようにして、新しいガスボンベを右に回して、しっかりと締めて下さい。

6. 救命胴衣を畳み、ポーチに収納しセットします。
（６ページの救命胴衣のポーチ収納方法の項を参照）

## ■自動膨脹装置の詳細






## ■救命胴衣のポーチ収納方法

1. 救命胴衣とベルトを連結する紐にねじれや、からみがない状態とし、ポーチと救命胴衣を広げます。（図 1）

2. 自動膨脹装置側を補助送気管側の下側に折込み（図1-A)、重なりがずれないようにします。（図 2）

3. 補助送気管の筒口上部（図 2-B)を折り点とし、救命胴衣の上部を内側に折ります。（図 3）

4. 補助送気管の取付端部（図 3-C)を折り点とし、その上部を内側に折ります。（図 4）

5. 折りたたんだ状態のまま、救命胴衣を左側に90度回転させながら、一番下にたたまれている救命胴衣を反対側に半分折り返します。（図 5）

6. 自動膨脹装置よりはみ出ている救命胴衣を両側とも自動膨脹装置の下側に折り込みます。（図 5-D,E）

7. 救命胴衣がポーチからはみ出さないように、その状態のままポーチに収納し、手動膨脹用引き紐の握り玉をポーチの外に出します。（図 6, 図 7）

図1

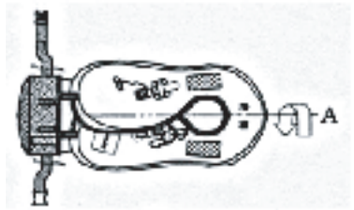



図2

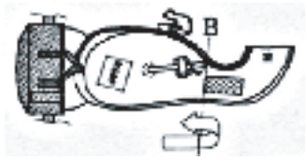



図3

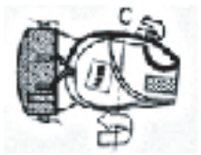



図4

図5

図6

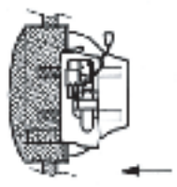


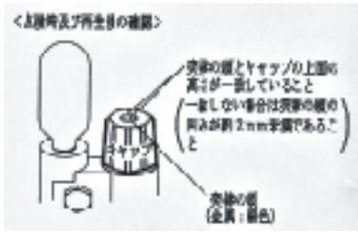
図7

## ■保守・点検

救命胴衣が何時も完全な作動をすることを確保するために、６ケ月毎に次項の保守点検を実施して下さい。

1. 救命胴衣の本体布の点検
裂け、切れ傷、こすれ、漏れ、損傷、変質等の有無を、点検して下さい。
漏れ等異常のある場合は、新しいものと交換して下さい。

2. 突棒の頭の位置の点検
「突棒」の頭が、キャップの上面より下に２mm以上下がっている時は、新しい純正部品（スプール）と交換して下さい。




3. 自動カット装置の保守・点検
亀裂、破損などの異状の有無を点検して下さい。
異状がある場合は、販売店又は弊社（興亜化工㈱）に修理を依頼して下さい。

4. ガスボンベの点検
ガスボンベを取り外して秤量し、ガスボンベ本体に刻印してある総重量（GW）と対比して下さい。
刻印重量より減量している場合及び錆が発生している時は、新しい純正部品と交換して下さい。

5. 補助送気管の点検
補助送気管に亀裂、裂け、変質等が無いか又キャップの有無を点検して下さい。
亀裂等異常のある場合は、販売店又は弊社（興亜化工㈱）に修理を依頼して下さい。

6. 締付けベルトとベルト連結紐の点検
ベルトと連結紐の損傷、切れ等とミシン糸切れ、ホツレ及びバックルの損傷の有無を点検して下さい。
損傷等のある場合は、修理を確実に実施して下さい。

7. ポーチの点検
ポーチに裂け、切れ傷等の損傷やミシン糸切れ、ホツレ等の有無を点検して下さい。
損傷等のある場合は、修理を確実に実施して下さい。

8. 笛の点検
笛の有無と音が出るかを点検して下さい。
笛が無い場合又は音の出ない場合は、純正部品に指定されている新しい笛と交換して下さい。

9. 再帰反射材の点検
再帰反射材の有無および剥がれ、汚れ、傷等を点検して下さい。
再帰反射材が取れた場合又は無い場合は、純正部品に指定されている新しい再帰反射材を所定の位置に貼付けて下さい。
又、剥がれ、汚れ等がある場合は、補修して下さい。

10. スプールの点検
＜スプールの有効期間＞は１年です。期間が経過していないか点検して下さい。
有効期間経過後は、純正部品に指定されている新しいスプールと交換して下さい。



整備記録・メモ

製 造 販 売
（国土交通省認定製造事業場）
興亜化工株式会社
ホームページ;http://www.koa-kako.co.jp
E-Mailアドレス;sales@koa-kako.co.jp
〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-13-9
TEL(03)5835-2924　FAX(03)5835-1041



(2003.12)